

物造りの熱意、それはゼネコンで花開く

鹿島建設(株) (S56 交通土木卒) 風間 優



ある本に、土木学という言葉が出てきます。そこには、土木学とは「人間を含めた全ての生物の生命維持装置である地球・国土を人間性・自然感・哲学を基本として、秩序と調和のある開発を実現するために体系化された知識」と定義されております。また、この土木学で定義された知識を持って具体的に社会資本整備に貢献するのが、土木分野の産官学であります。即ち、学が専門分野を細分化しつつ科学的研究を進め、官は国民のニーズに応えるべく国土のグランドデザインを描き、産がそれらを具体的に形作るという構図であります。

そして、京大土木を卒業する皆さんは、身に着けた知識と創造力、更には必ず遂行すると言う強い熱意と馬力ある行動力によって、土木分野を担うそのフロントランナーであるべきと考えております。

さて私は、産の立場のゼネコン（鹿島建設）に入社し、26年間勤めてまいりました。その経験から、ゼネコンを希望される方に伝えたいことは、「多くの仲間と共に、社会に役立つものを作っているという実感を、常に肌で感じる事が出来るやりがいのある職場」と云うことです。そしてそのために**必要な素養**は以下に示すとおりです。

1. まず何よりも心身ともに健康であり、馬力がある
2. あらゆる技術を駆使し、物造りを行いたいという熱意がある
3. 現状でよいかを常に考え、次へと発展させる創造力がある
4. 明朗で協調性があり、組織人となりうる
5. 必要な知識・能力がある
6. 質疑応答・立ち居振る舞いが適切である



社会資本の重要性は時代と共に変化しますが、以上のような意識と素養を持った若者が、日本の将来への夢の架け橋を構築してくれるものと信じます。